教養について

荒　井　正　行

君たちにはあまり関心が向かないかもしれませんが，最近の大学教育の動きについて少し話をしてみたいと思います．これまでの大学の教育方針とその改善は，学部で学ぶべき学習項目をより高度なレベルで教育すること，そのために大学院との連携を深めてくことに重きがおかれてきました．文部科学省が数十年にわたりこの方針を強力に推進してきました．本学においても，野田キャンパスに研究所を設置したり，大学から大学院まで 6 ヵ年一貫教育を行ってきており，これらは文部科学省の方針に従ったことによるものといえます．

しかし，去年からこのような方針が見直されようとしています．ひとつは，高校から大学に滑らかに移行（接続）できるようにすること（高大接続）と，教養教育の強化です．前者は，例えば高校で学んできた数学や物理の用語が大学ではあまり用いられず，学部独特の用語が用いられていました．これが新入生の専門分野の理解を阻害しているというのです．このため，この様な弊害を取り除くため，高校と大学で用いられている用語を統一しようとする試みがなされています．私の授業「材料力学基礎及び演習」でも高大接続に配慮して，高校物理の用語と材料力学のそれとがどのように対応しているのか，に配慮しながら講義しています．一方，後者は古くて新しい教育方針です．旧帝大時代には，当時の高等学校が現在の大学教養学部に相当しており，工学部進学希望の学生であっても広範囲にわたる学習が求められていました．その後，教育の効率化を背景に，教養学部が廃止され，低学年に向けた専門科目の棚卸が行われました．例えば，本学工学部機械工学科では材料力学を 1 年生後期で学習するようカリキュラムが組まれています．ところが今後，このカリキュラムが変わろうとしています．すなわち，教養科目（語学系，経済，社会，歴史，政治など）をじっくりと二年間以上にわたり教育していこう，という議論されています．さらに大学院でも教養科目の履修が課せられ，既に昨年度から 4 単位取得が必須となりましたことは皆さんもよく知っていることと思います．一方，専門科目は，3 年生以降にシフトされるとともに，専門科目の取得単位数も現在に比べて 2/3 程度まで削減されようとしています．この話はまだ決まっていませんのでご安心を...

それでは今になって何故教養教育の重点化が進められようとしているのでしょうか？担当副学長はつぎのような説明をしています．「専門的な学習内容は今や AI にとって代わられようとしている．今後，この流れに沿って専門知識のブラックボックス化が進められていくことでしょう．従って，このような時代の流

れのなかで，社会で求められる人材は，幅広い知識に立脚した創造的人物だと思うのです．ですから，教養教育が重要なのです．」と．昔の教育体制の中で成長してきた私たちにとっては，全く受け入れられないお話です．数学と物理を駆使した専門知識が，今後はAIにとって代わられるとは...

さて，ここで大学教育の話から離れて，ある人物にスポットライトを当てたいと思います．実は，これからの話は昨年度の修士課程修了授与式の祝辞で私が話した内容がベースとなっています．その方の名前は，出口治明（はるあき）さんです．過去の人物ではありません．今も活躍されており，現在，立命館アジア太平洋大学の学長です．この方を知った機会はある本を通じてです．最近はあまり本を読めていませんが，週に約2冊程度、月に約8冊～10冊は今でも読んでおります．そのようななかで，ちくま書房から出版されている「人類 5000 年史」という本に触れ合う機会を得ました．通常，地域を固定させつつ年代を見ていくのが世界史の標準的な記述方法ですが，この本では，ある年代を固定させながら並列に地域の歴史を俯瞰していくという点で大変興味深い内容でした．読後，どこの大学の先生が執筆されているのか調べてみると，なんと生命保険会社の社長ではありませんか．私は，この人物に大変興味をもちました．いろいろと調べてみると，つぎのような経歴を経ていることがわかりました．小学校入学から現在まで毎日1冊読書をしているそうです．小学校，中学校，高校の図書館にある本はほとんど読んでしまったようです．大学は京都大学法学部だそうですが，あまり大学には行かず，哲学と歴史の本に取りつかれたようです．大学卒業後，日本生命保険に入りましたが，この理由も他の会社に比べて読書のための時間を十分に取れるというのが決めてだったそうです．このため，出口さんは会社においても常に外から客観的に会社を見ることができたといいます．すなわち，会社につくす会社員にはならなかった！その後，58 歳で会社を退職されています．「これまでの保険会社は，外交員が各会社，人をまわって契約をとってくる」という非効率的な業務形態に疑問をもち，インターネットで各自がアクセスして保険を契約していくという新たなビジネスモデルを考え，「ライフネット生命」という会社を立ち上げました．皆さんもこの会社をよく知っていると思います．会社の経営とともに，早稲田や東大で非常勤として経営学に関する講義を頼まれたそうですが，あまり経済の話をせず，日本史，世界史を中心に無駄話のような講義していたそうです．その噂を聞きつけた受講者のうちのひとりが出版社に就職し，出口さんに日本史と世界史の本を書くように勧めたそうです．そのうちの一冊が，私が読んだ本だったのです．歴史学者が書いていたらあのように面白くはなかったと思います（失礼！）．その後，数年で会社を後輩に任せ，本人は大学の学長になったわけです．ここら辺の経緯はまた非常に面白いのですが割愛します．立命館では，学長室を研究室として学生にオープンにして，起業と

は何か，学生と一緒に話し合い，研究しているそうです．

さて，ここで話をもとに戻しましょう．大学における教養教育の重点化の話．これは，出口さんの話からわかるように，人間は専門分野に限定されない幅広い知識を身に着けておくことが必要です．これには私も同意します．しかし，私が皆さんに伝えたいことは，教養の身に着け方です．大学での教育の基本は，学びの到達度を点数で評価していくことにあります．そもそもこの基本が教養教育とは水と油なのです．教養教育は，そもそも配点主義の世の中には馴染まない！すなわち，点数基準の教育では，点数をとることに学生が重きを置くようになります．この考え方が教養教育にまで広がると，例えば経済学が単なる暗記教科に成り下がることになるでしょう．こうなってしまっては，それは教養教育とは言えません．あらゆる教育の基本は，配点主義と単位取得ではなく，知的好奇心と興味の発掘にあるべきです．今後，大学教育がどのように変遷していくのか，我々は注視し続けていきますが，まずは皆さんには物事を覚えるようなやり方ではなく，考える力を身に着けてほしいと思います．つぎに考える範囲を広げるために，そして世界各国の方々と対等に付き合えるようにするために教養を身に着けてほしいと思います．教養の具体的な身に着け方は？それは，出口さんが教えてくれていますね．幅広い分野にわたり読書（多読）をすること．さらに歳を経てもなお読書し続けること．読書を通じて世界の窓，心の窓をどれだけ広げられるかが，君たちが年齢を重ねていくうちに真の教養を身に着けた，といえるのではないでしょうか．さあ，図書館に行き，一冊本を手に取ってみてください．きっと新しい世界が広がると思います．